

令和2年 6月市長定例記者会見

日 時：令和2年6月1日（月） 午前11時～

場 所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、
富山テレビ、庄東タイムス、ホットライン KOSUGI

当局出席者：市長、財務管理部長、企画管理部次長、未来創造課長、
商工企業立地課長、港湾・観光課長

質疑応答の概要

Q1. 第一イン新湊の移転・改築について、具体的にどのような点に期待するのか伺いたい。

A1. 新湊地区の新鮮で豊富な海産物や、内川をはじめとする景観、獅子舞や曳山といった伝統文化など魅力あるコンテンツがそろっているベイエリアの観光振興に繋がることを喜ばしく感じている。特に、移転を考えておられる敷地の隣接地が現在整備している複合交流施設「クロスベイ新湊」であり、この施設との相乗的な効果が期待できる。施設に設けられるコンベンションホールを使った交流会や会議などの開催やホテルを居住の拠点としながら観光施設に足を運んでもらうといった様々な効果が期待できると考えている。また、「クロスベイ新湊」については、地域の皆さんに「しんみなとまちづくり協議会」を立ち上げてもらい、地方創生の推進交付金を活用した活性化事業にも取り組む検討を進めてもらっており、その相乗効果も期待できる。様々な魅力を複合させながら更に魅力あるまちとして、アフターコロナの中での活性化に繋げていけるような取組になると期待している。

Q 2 . 特別職の期末手当の削減について、専決された日時、それぞれいくら削減されるのか、また、基金の想定等詳しい枠組みがあれば伺いたい。

A 2 . 5月25日に専決しており、総額は約162万円である。割合は、市長が50パーセント、副市長が20パーセント、教育長が10パーセントである。減額した部分については、6月定例会で説明するが、射水市における新型コロナウイルス感染症対策の取組への財源としての使用を考えており、新たな基金を設置しそこに充てるほか、市議会で今年度取りやめになった委員会等の視察の財源も基金に充てる。また、広く寄付等も受け付けをし、今後の感染拡大防止の取組や、疲弊した経済の回復に向けた取組への財源として活用を考えている。

Q 3 . 「いみずうまいもん券」の利用方法がテイクアウトと宅配に限られるが、座席分けをしてイートインを行っている店舗との平等についてどう考えているか伺いたい。

A 3 . 緊急事態宣言が解除されたことを受け、店舗では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を行った上で、店内での飲食も再開されている。そちらの支援については、県の方で補助制度を創設されているため、その活用を支援していければと考えている。現在、県内から新規感染者がしばらく出ていないという状況であり、落ち着いている状況ではある。しかし、他の地域のように第2波の感染拡大が射水市でも起こりうることから、「with コロナ」の意識、また、「アフターコロナ」の対策として「新しい生活様式」の定着が必要である。テイクアウトや宅配がそういったものにも繋がっていくと考えていることから、この機会に、テイクアウトや宅配に取り組みされる飲食店等を支援し、「新たな生活様式」の円滑な導入を応援していければと考えている。今回は、「うまいもん券」の使用について理解をいただけた72店舗が対象となっている。すべてのお店が対象になっていない現状はあるが、今後の「新たな生活様式」を意識して応援していきたい。